

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
北海道芸術デザイン専門学校	昭和51年5月1日	杉澤投吉	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 美専学園	昭和51年5月1日	高橋英雄	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
目 的	学科の目的 建築デザイン学科の各分野(計画、法規、構造、施工、設計)に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業分野専門課程	建築デザイン学科 (2級建築士専攻)	2年(昼)	2,400単位時間 (又は単位)	平成7年1月23日 文部省告示第7号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1080単位時間 (又は単位)	1320単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数	11人	3人	10人	13人	
学期制度	■前期：4月1日～9月28日 ■後期：9月29日～3月31日	成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。		
長期休み	■学年始め：4月9日 ■夏季：7月28日～8月17日 ■冬季：12月17日～1月12日 ■前期末：9月10日～9月28日 ■学年末：3月4日～4月7日	卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって、授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の修了・進級または卒業を認定する。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談及び保護者との連携	課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会 体育事業の参加、地域清掃等 ■サークル活動(有・無)		

<p>主な就職先</p>	<p>■主な就職先、業界 設計事務所、工務店、ハウスメーカー他</p> <p>■就職率 100%</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>CADトレース技能審査、色彩士検定、福祉住環境コーディネーター、商業施設士、建築CAD検定、Illustratorクリエイター能力認定試験</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 33%</p> <p>平成25年 4月 1日在学者 9名 (平成 25年 4月入学者を含む)</p> <p>平成26年 3月31日在学者 6名 (平成 26年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 健康及び経済的理由による進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL:<a href="http://www.bisen-g.ac.jp">http://www.bisen-g.ac.jp</a></p>		

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

- ・ 学生の就業先の業界動向に関する最新情報を収集し、現場の実務で求められる専門スキルに対応した授業科目の開設や授業課題の設定、ICT関連機材等の学習環境整備、教材開発等に活用する。
- ・ 企業等委員から経営者としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組む。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年9月30日現在

名 前	所 属
佐野公康	株式会社デービス 代表取締役
西村昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長
井上俊彦	一般社団法人 札幌・北海道コンテンツ戦略機構 理事長
内藤卓也	株式会社ジュリアジャパン 取締役社長
野村光雄	株式会社デザインミック 代表取締役
薄木健友	株式会社フルーロン花佳 代表取締役
鈴木 理	株式会社鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役
中山眞琴	株式会社ナカヤマ・アーキテクト 代表取締役
杉澤投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
堀口徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長
高橋絵美	北海道芸術デザイン専門学校 教務部長
飯塚哉子	北海道芸術デザイン専門学校 学務部長・建築デザイン学科長
山内芳美	北海道芸術デザイン専門学校 産業デザイン学科長
田中政史	北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長
松原祐子	北海道芸術デザイン専門学校 環境デザイン学科長

### (開催日時)

第1回 平成26年8月27日 16:00～17:30

第2回 平成27年1月21日 16:00～17:30 (予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

- ・ 職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・ 担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、教務部へ提出する。

科目名	科目概要	連携企業等
設計製図Ⅰ	実務に必要な諸規定を設計実務とリンクした設計演習課題を通して学び、建築設計における設計図書の作成プロセス、各段階における建築模型等検討資料の作成プロセスとその役割について、技術・技法を確実に身に付けることを目的として企業等の建築士指導の下演習を行う。	株式会社 ナックデザイン
建築計画Ⅰ	各種建築物の計画に関する条件（立地、予算、法規、機能）を整理検討し、具体的な形状や空間としてまとめる設計能力を養う為、実務卓越性を有する一級建築士の指導の下、演習課題を通して空間の構成力を高め、単なる知識・技能の修得にとどまらず、応用・展開できる実践的な人材の育成を目指す。	有限会社 伊達計画所
建築法規Ⅰ	建築設計士及び建築家志望の学生が、学校や机上だけではなく実際の体験を通して学びながら実務を習得する事を狙いとする。法規を中心とした設計演習課題を通して都市計画情報（用途地域等）の閲覧・検索の仕方等、実務に即した情報収集能力を高める能力を養う。建築基準法の運用基準及び申請の流れに沿った授業の展開を行い、産業界での即戦力となる人材の育成を目指す。	石塚和彦アトリエ一級建築士事務所
建築CAD演習Ⅱ	CAD ソフトを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、早くきれいに分かり易く設計内容を提示する能力を身に付けることを目的として企業等の講師指導の下演習を行う。	株式会社 アトリエ樹
造形演習Ⅰ	作品製作を通じて建築物を立体的に表現する能力を身につけ、建築設計に必要な三次元形態の把握、及びプレゼンテーションによる伝達手法、空間構成の基礎力を養う。	オチュカデザイン
<b>3. 教員の研修等</b>		
<p>(教員の研修等の基本方針)</p> <p>本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。</li> <li>・ 各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。</li> <li>・ 授業および学生に対する指導力向上のため、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。</li> </ul>		
<b>4. 学校関係者評価</b>		

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 9 月 30 日現在

名 前	所 属
河村和義	株式会社アトリエK 一級建築士事務所 代表取締役
櫻井俊二	北海道芸術デザイン専門学校校友会会長
安田昭夫	元北海道芸術デザイン専門学校学校長・元北海道白石高等学校長
山森鉄夫	司法書士 山森鉄夫司法書士事務所 所長
杉澤投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
西尾正道	北海道医薬専門学校 学校長
館山昭	北海道医薬専門学校 副学校長
堀口徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

- ホームページ <http://www.bisen-g.ac.jp/>
- 北海道私立専修学校各種学校連合会の発行する「北海道専修学校概要」等の進学情報への掲載

授業科目等の概要

工業分野専門課程 建築デザイン学科（2級建築士専攻）平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			基礎製図	建築設計製図の基礎、表現、技法を習得すると共に、デザインすることの意義を学ぶ。	1・前	60	2		○	
○			設計製図Ⅰ	建築設計（住宅）における知識と技術を理論的に学習し演習を通して基礎的設計技術を身につける。	1・前	60	2	△	○	
○			設計製図Ⅱ	設計製図Ⅰで習得した理論、知識、技術を発展させる為に様々な建築用途の演習をとおして建築を学ぶ。	2・前	60	2		○	
○			建築設計デザイン演習Ⅰ	デザイン基礎科目を踏まえ、建築設計デザインの在り方と課題について具体的に理解し、演習を通して建築設計デザインを行う意義と有用性について学ぶ。	1・後	60	2	△	○	
○			建築設計デザイン演習Ⅱ	建築設計デザインⅠを踏まえ、様々な用途の演習を通して、的確な空間把握、用途に応じた設計デザインをする能力を養う。	2・前	60	2		○	
○			建築 CAD 演習Ⅰ	建築 CAD の概要、二次元 CAD による作図の方法を学び、コンピュータを利用した設計・製図技能を習得する。	1・後	60	2		○	
○			建築 CAD 演習Ⅱ	コンピュータを利用して建築空間の検討や建築物の形態、室内環境、景観などをシミュレーションし、素早く、きれいに、分かり易く、設計内容を提示する能力を養う。	2・前	60	2		○	
○			住宅・店舗設計演習	住宅・店舗設計に係る基本科目等の基礎的な知識、技術、工法を踏まえ演習課題を通して住宅・店舗設計に関する知識と技術を学ぶ。	2・前	60	2	△	○	
○			建築計画Ⅰ	建築と環境、各種建築物の計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画し、設計できる能力を養う。	1・前	60	2	○	△	

○		建築計画Ⅱ	住居系・非住居系の建築をとおして建築の計画と設計を理解する。	2・前	60	2	○		
○		住空間計画	住宅を対象に住宅が成り立たせる背景を学ぶ。建築設計、計画における幅広い視野を習得。	1・後	60	2	○		
○		都市デザイン	私達の生活する都市を、どのようにするのか。そもそも、都市とは何かを具体例に即して考察する。	2・後	60	2	○		
○		建築環境工学	安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための基礎的な事項を学び、建築をとりまく自然環境の特性、熱移動の基本的プロセス、熱の平衡、人間の感覚と快適環境条件を理解する。	1・前	60	2	○		
○		建築設備計画	建築の要素技術である建築設備の位置づけおよび概論的な内容を講義する。給排水衛生設備計画を進める上で必要となる基礎知識を習得する。	1・後	60	2	○		
○		建築構造力学Ⅰ	本講義では構造力学の基本事項として、建築構造物の種類、力のつり合い、構造物のモデル化と作用する外力、構造物に生じる応力と変形の関係を理解する。	1・前	60	2	△	○	
○		建築構造力学Ⅱ	各種構造物が力学的にどのような構造になっているか構造力学の原理を理解させ不静定構造に関する基礎理論を体系的に解説し、演習を交えて理解を深める。	2・前	60	2	△	○	
○		建築構法	建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習する。	1・後	60	2	○		
○		木構造	日本建築の特徴である木構造の基本を理解し、施工の概要、構造の特徴、木材の性質、構造設計に必要な構造計画を学ぶ。	1・後	60	2	○		
○		鉄筋コンクリート構造	鉄筋コンクリートとしての部材の力学挙動を正しく理解する能力を養う。	1・後	60	2	○		
○		鋼構造	鋼構造の建築空間構成に果たす役割、材料としての鋼材の性質、空間構成の方法と設計の基礎となる変形・力の伝達と耐力等を体系的に理解することを目標とする。	2・後	60	2	○		
○		建築材料	建築に必要とされる材料の種類や性質、用途と用法を学習する。建築構造材料の力学的特性、耐久性を理解し、仕上げ材を適材適所に選定できる能力を養う。	2・前	60	2	○		

○		建築生産	建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について事例に基づき解説する。	1・前	60	2	○		
○		建築施工	建築の設計から施工に至る建築生産の全工程における建築生産体制、各種の課題、施工技術について事例に基づき解説する。	2・前	60	2	○		
○		建築法規Ⅰ	建築基準法及び建築基準法施工令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について学び、設計に際しての実務に応用すべく能力を養う。	1・後	60	2	○	△	
○		建築法規Ⅱ	法規Ⅰで得た知識をもとに、法を踏まえた上での建築設計・デザインの表現を知る。	2・前	60	2	○		
○		建築概論	建築を学び始めるにあたって、人間の生活環境としての建築空間を創造する理論、方法を概観することを目的とする。これから始まる建築に関する種々の専門分野の相互関係を理解する。	1・前	60	2	○		
○		造形演習Ⅰ	作品製作を通じて建築設計に必要なプレゼンテーションテクニック及び建築の三次元形態の把握方法を理解する。	1・後	60	2	△	○	
○		造形演習Ⅱ	模型制作を通して各工法の基本となる構造や名称を学習し、現場施工の手順に沿って組み立てることにより、施工の流れの概略を理解する。	2・前	60	2		○	
○		北国の建築	雪国ならではの独特な設計や施工、デザイン、問題点などを事例を踏まえて、学習していく。	1・後	60	2	○		
○		建築プレゼンテーションⅠ	建築を表現するための手段としてのプレゼンテーションについて、知識と技術を学び、イメージや考えを相手に的確に伝える能力を養う。	1・前	30	1		○	
○		建築プレゼンテーションⅡ	基本計画・設計を造形的表現、技術的表現を用いて的確に伝達するビジュアルプレゼンテーション技法を学ぶ。	2・後	60	2		○	
○		パースペクティブ演習	設計意図を的確にクライアントに伝え、かつ自身の空間イメージの把握として、パース技法を習得する。	1・前	30	1		○	
○		ユニバーサルデザイン論	ハートビル法を理解し、ユニバーサルデザインを考慮した各部寸法、面積、配慮事項を設計演習を通して学ぶ。	1・後	30	1	○	△	



○		色彩計画論	色彩の基本的な概念、理論を学び、環境の色彩計画・デザイン事例に触れることにより色彩計画を習得する。	1・前	30	1	○		
○		卒業制作	社会的な広い視野からテーマを導き、創造性溢れる提案で企画・設計・プレゼンテーションを行う。自ら課題設定と敷地選定を行いオリジナリティーのある提案をまとめる技量を養う。	2・後	360	12	○		
○		英語	初歩的な英語の運用能力を養い、実際の場面で役立つ総合的な英語力を伸ばすことを目標に、リーディング力、語彙力を向上させる。	1・前	30	1	○		
○		前期課題制作	通常の授業を通して学んだ技能や発想を生かし、前期のまとめとして課題を制作する。	1・前	30	1	○		
○		後期課題制作	通常の授業を通して学んだ技能や発想を生かし、後期のまとめとして課題を制作する。	1・後	30	1	○		
○		キャリアデザイン	人生を主体的に考える学生を育てることを目的とし、業界と職種の構成、企業が望む人物像を学ぶとともに、自分の希望業種、職種を理解し、職業選択について深く考察する。	2・後	60	2	○		
合計				39 科目	2400 単位時間 (80 単位)				